

泌尿器科初期研修カリキュラム
カリキュラム責任者：播本 幸司

<一般目標 GIO: General Instructional Objective>

基本的な泌尿器科疾患に対応するために、外科系診療の基本および泌尿器科疾患総論について理解し、知識を学び、泌尿器科研修を通じて、実践に努め、基本的な診断、検査、治療を行うことができる。

<行動目標 SBO: Specific Behavioral Objective>

1. 泌尿器科的理学所見（腹部、男性生殖器の診察、直腸診）ができ、正しく所見を述べることができる。
2. 尿沈渣所見を正確にとることができる。
3. 血尿の鑑別診断を述べることができる。
4. 腹部超音波検査にて腎・膀胱を描出できる
5. 経直腸超音波検査にて前立腺を描出でき、体積を計算することができる。
6. 腹部 CT、MRI の泌尿器科領域の異常所見をみつけることができる。
7. DIP の所見を述べることができる。
8. 間歇導尿法の利点、欠点を述べることができる。
9. 膀胱留置カテーテルを適切に留置することができる。
10. 簡単な創傷処置を実施することができる。
11. 前立腺針生検法の適応と合併症について理解できる。
12. 膀胱鏡検査の適応と合併症について理解できる。
13. ESWL の適応と合併症について理解できる。
14. 腎瘻造設術の適応と合併症について概説できる。
15. 末期腎不全患者に対する透析導入の適応について理解することができる。

16. 泌尿器科悪性腫瘍、下部尿路通過障害、尿路感染症、性機能障害、男性不妊症に対する診断と治療を概説できる。
17. 泌尿器科手術の周術期管理を理解することができる。
18. 明快な症例提示（プレゼンテーション）を行うことができる。

<方略 LS: Learning Strategies >

- ・基本的に研修期間中は指導医がマンツーマンで指導を行い、指導医の適切な指導のもと、主体的に治療を行う。
- ・術前、術後カンファレンス：週1回（水）、受け持ち患者の術前のプレゼンテーション、術後プレゼンテーションを行う。
- ・回診：毎日、上級医、指導医とともに受け持ち患者の回診を行い、現在の状態についての簡単なプレゼンテーションを行い、今後の必要な検査と治療について立案する。
- ・手術：週5回（月、火、水、木、金）、受け持ち患者の手術に第1-2助手として参加し、基本的な外科手技について身につける。
- ・膀胱鏡検査：適宜、担当患者の膀胱鏡検査を上級医、指導医の監督のもと行い、所見を述べる。
- ・腹部超音波検査：適宜、担当患者の腹部超音波検査を上級医、指導医の監督のもと行い、所見を述べる。
- ・経直腸超音波検査：適宜、担当患者の経直腸超音波検査を上級医、指導医の監督のもと行い、所見を述べる。
- ・前立腺針生検：担当患者の経直腸超音波検査を上級医、指導医の監督のもと行う。
- ・ESWL：週1回（水曜日）担当患者のESWLを上級医、指導医の監督のもと行う。
透視下検査：適宜、担当患者の排泄性尿路造影、逆行性尿路造影、尿管ステント交換に対し、上級医、指導医の監督のもと行う。腎瘻造設、尿管ステント留置に対しては上級医の指示のもと介助を行う。
- ・抄読会：月1回（水曜日）、指導医が指示した英語論文の内容を発表する。
- ・学会発表：適宜、適宜地方会や学会に参加し、最新の知見を得る。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8-9 時		モーニング レクチャー				休み
午前	病棟	(外来) 病棟	手術	(外来) 手術	病棟 (手術)	
午後	手術	透析	手術	手術	透析	
夕方			カンファ レンス			

<研修評価 EV: Evaluation>

基本的に指導医がそれぞれの項目につき PG-EP0C にて適宜評価を行う。

研修終了時に評価表を提出。

研修評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを含む 360 度評価を行い評価表は泌尿器科のスタッフ以外のメディカルスタッフの評価も行う。